

様式第1号（第7条関係）

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和7年 9月 4日

和泉市長 あて

団体名 いずみの森の会
代表者名 浅見 肇
所在地 和泉市伯太町6-8-32
電話番号 090-3627-7960

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	自然観察体験・工作体験
申請コース	(1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース <input checked="" type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
事業費総額	44,650 円 (うち、対象経費 44,650 円)
支援金 交付申請額	22,000 円

1. 添付資料

- (1) 団体概要調書（様式第2号）
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書（様式第3号）
- (4) 収支予算書（様式第4号）
- (5) その他市長が必要と認める書類

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

事業計画書

1 事業名	自然観察体験・工作体験
2 申請コース	<input type="checkbox"/> (1) 公益活動支援コース <input type="checkbox"/> チャレンジコース ■ ステップアップコース <input type="checkbox"/> (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
<p>① 事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等 ひと昔前は、日用品やおもちゃは里山などで材料を調達して作っていました。今は大量生産の時代で自然の材料を使って手作りの工作をすることが減っています。子どもたちに自然の恵みを利用した工作でつくる楽しみや遊びを伝えます。天然資源の有効利用の観点から伐採した樹木や竹を利用することが求められています。</p> <p>② 事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果 工作体験は伐採竹を材料にしています。子どもたちに天然素材で作る楽しみや面白さを伝え、創造性豊かな子どもの育成に寄与します。 工作体験に使用する材料は自然の素材で太さや形は微妙に違います。子どもたちは工作体験で作った竹ポックリやカエルを親に自慢しています。自分で作った作品だから大事にしています。工作が子どもたちの遊びや成功体験につながればと思います。 子どもの時の楽しい記憶は、生涯の思い出になるという説があります。頑張った記憶や技術はその人の未来の宝物です。 又、木の実などの採取を通じて自然の恵みや遊びを実感してもらえればと思います。</p>	
4 事業内容（※別紙添付可）	
<p>① 問題点、課題を解決するためにどのような方法を用いてどのような事業を実施しますか 工作体験は、公園内の竹林整備で伐採した竹を材料に子どもたちに工作をする面白さ、たのしさを体験してもらいたく、他団体主催のイベントに「工作体験」で出店しています。作るのはあくまで、子どもや親子でいずみの森の会の会員は工作の補助・指導のお手伝いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりのフェスタにて2種類の工作体験（カエルのキーホルダー、松ぼっくりの工作）と森の市（松ぼっくりや木の枝、木片の販売）の出店。 ・内田町ホテルの鑑賞会にてノコギリ体験で「カエルのキーホルダー作り」の出店。 ・いずみの森の会単独（和泉市緑化センター共催）で「秋の工作体験」を開催。 ・ノコギリ体験は「竹ポックリ作り」で、他に「ドングリのコマ作り」を実施。 ・「自然観察体験」（樹名板作り）と公園内の散策（どんぐり拾い）。 	
② 実施期間（日時）	5月 みどりのフェスタ、6月 ホテルの鑑賞会、11月 自然観察体験、秋の工作体験
③ 実施場所	5月 黒鳥公園、6月 内田町河川公園 11月 宮ノ上公園
④ 主な対象者	出店イベントに来場した子どもや保護者。掲示ポスターを見て参加申し込みをした市民
⑤ 参加予定者数	不特定（イベントの来場者に体験してもらう） 体験者数の予想、竹ポックリ60人、竹カエル250人、どんぐりの駒づくり80人 自然観察体験会15人
⑥ 告知方法	イベント開催に合わせた出店のポスターを図書館や公共施設に掲示を依頼します。広報誌には共催団体から参加者募集の記事を掲載

5 事業スケジュール	
次期(月)	内容
5月	みどりのフェスタ(ノコギリ体験 竹カエル)
6月	内田町ホテルの観察会出店(ノコギリ体験 竹カエル)
11月	秋の工作体験(ノコギリ体験 竹ポックリ、 ドングリの駒づくり)、植物観察会(植物観察&樹名板作成)
その他	物品販売など(自主事業)
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 (実施事業について、どういう点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。)	
① 公益性	<p>和泉市の森林は市民の宝です。貴重な森林を未来につなげるためには整備が必要ですが、整備が不十分なため荒廃している森林もあります。竹林も手入れが必要ですが、手入れがされていない竹林が多いです。いずみの森の会は市民ボランティア組織で公園の竹林整備をしています。伐採した竹は景観の問題で焼却処分しています。焼却処分する竹の有効利用で工作体験の材料にしています。微々たる量ですが焼却量の削減に努めています。また、竹は色々な材料に利用できます。竹を利用したいから放置された竹林を手入れするという人が増えたら幸いです。</p> <p>子どもたちに自然の材料を使って工作を体験してもらうことで、作る面白さや遊びを伝え、創造性豊かな子どもの育成に寄与します。自然の素材が利用できることを体験してもらいます。</p> <p>工作体験をする子どもは3歳児から小学4年生が多いです。だれでもできるように工作を指導するスタッフは、体験者の能力に合わせて指導しています。幼児の場合は3名で補助をすることもあります。体験者の能力に合わせて途中まで加工して完成するのは子どもという場合もあります。</p> <p>色々な人が工作を出来るように一から作る工作と簡単な工作の2種類を用意する時もあります。現代社会で自然の素材を使って遊ぶことが減っています。ものを作る楽しさ加工する楽しさを伝えています。</p>
② 継続性	<p>いずみの森の会は市内のイベントで工作体験を10年以上出店しています。イベント会場で森林整備などの写真を掲示して活動の紹介もしています。子どもたちと工作するのが好きな会員も多いです。新規スタッフの育成にも努めています。</p>
③ 実行性	<p>いずみの森の会は市民ボランティアの集まりで、発足してから20年以上活動しています。主な活動である森林整備や竹林整備は年に20回以上実施し、活動に参加したボランティアは延べ9千名以上です。令和6年度の延べ参加者数は377名です。</p> <p>工作体験は2009年の「和泉市商工まつり&農林業祭」に出店し、現在も農林業祭に物品販売で出店しています。</p>
④ 協働性	<p>和泉市の公園サポーター制度に基づき、公園サポーターに登録して公園の美化に努めています。和泉市林業協議会や和泉市公共施設管理公社、内田町ボランティア蛸の会などの団体と連携して工作体験を実施しています。</p>
⑤ 公開性	<p>会が主催する工作体験については、ポスターを図書館や公共施設に掲示依頼します。各種団体が主催するイベントに出店する時は主催団体のチラシに掲載されることもあります。</p>
⑥ 発展性 (先駆性・展開性) (集客性)	<p>「いずみの森の会」の看板や活動を紹介するパネル展示も実施しています。公園の来場者を対象に季節に適した材料や題材で「ミニ工作体験」を検討するなど工作のバリエーションを増やして面白さを広げていきたいと考えています。</p>

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

収支予算書

事業の名称： 自然観察体験・工作体験

1. 【収 入】 （単位：円）

項 目	金 額	積算根拠
支援金	22,000 円	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	3,000 円	工作体験料（1回10円×300人）
	4,650 円	工作物販売（自主活動）・森の市
	2,000 円	体験者からの寄付
自主財源	13,000 円	会員などからの寄付
合 計	44,650 円	

2. 【支 出】 （単位：円）

費 目	金 額	積算根拠（数量、単価等）
旅費	5,500 円	交通費
消耗品費	31,500 円	動眼、ヒートン、ボンド、紐、マーカ ー、サンドペーパー、テープ、針金、ノ コギリ刃、爪楊枝、電動式ドリル、体験 時必要な消耗品
食糧費	2,100 円	スポーツ飲料（140円×15本）
印刷製本費	4,050 円	チラシ（A4 カラー12部） ポスター（A3 カラー12部） 植物観察会用資料 （A4 カラー5ページ15部）
役務費	1,500 円	行事保険代
合 計	44,650 円	
対象経費	44,650 円	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。

※実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。